

新規事業採択時評価対象事業

観音寺スマートインターチェンジ(仮称)
アクセス道路整備事業

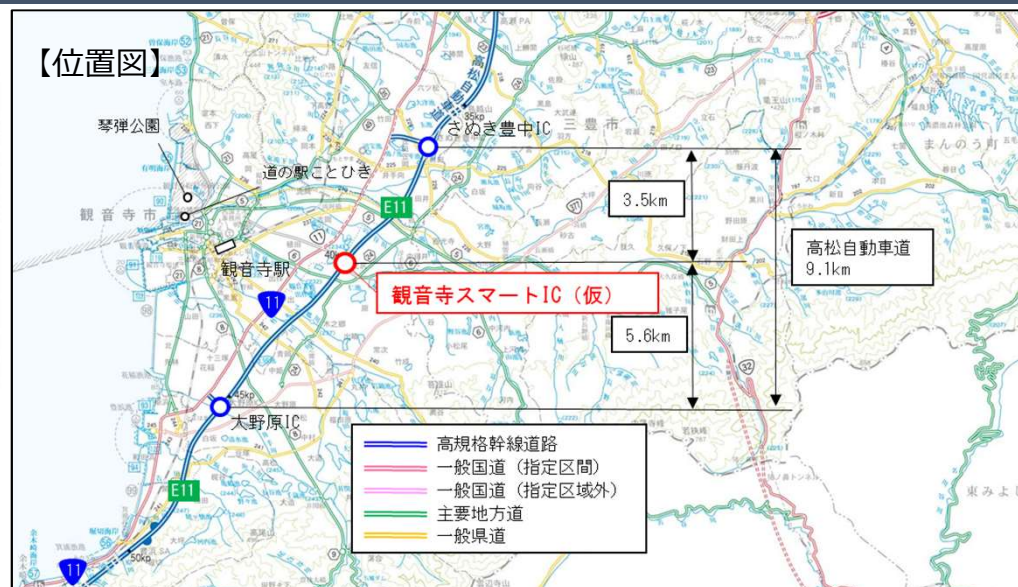
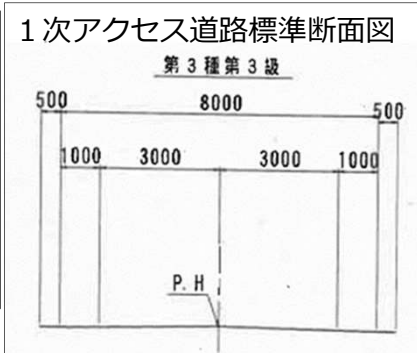
観音寺市

スマートインターチェンジとは

○高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、通行可能な車両（料金の支払い方法）を、**E T Cを搭載した車両に限定しているインターチェンジ**。

○高速道路の利便性の向上とともに、これまでインターチェンジのなかった地域に高速道路へのアクセスを確保することで、**地域再生や振興に寄与**することができる。

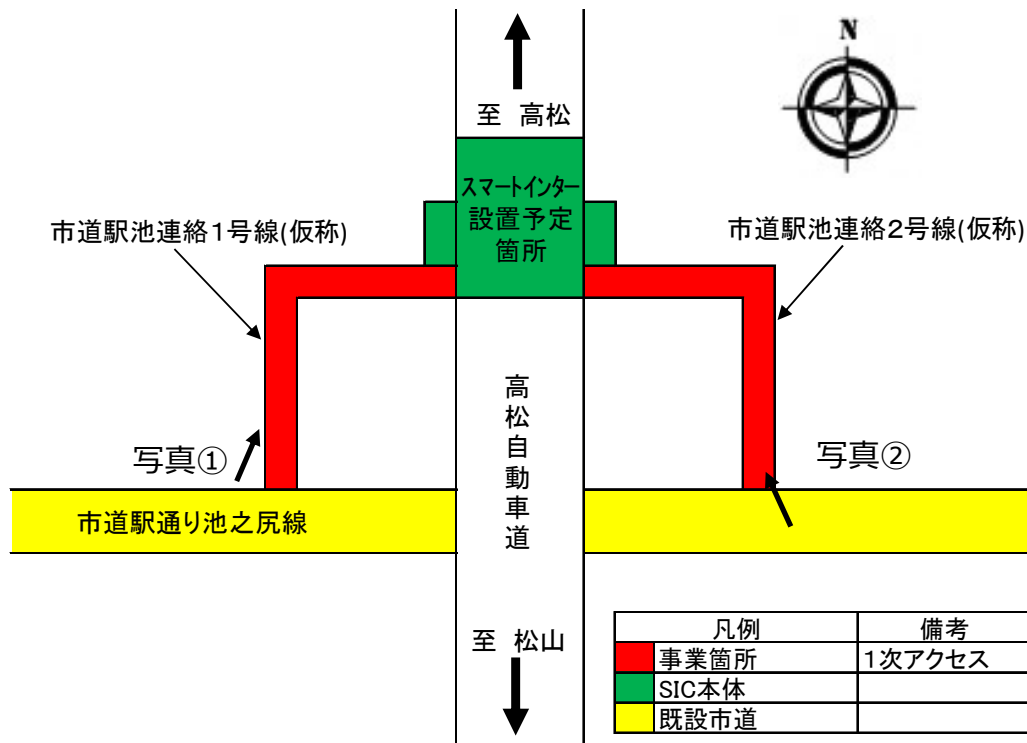
事業概要①



「この地図は、国土地理院から承認を得た地図（承認番号 平29 四使、第1号）の一部を抜粋して掲載しています。」

- ・事業箇所：香川県観音寺市池之尻町
- ・事業主体：観音寺市
- ・整備延長：約1.4km
1次アクセス道路（3種3級、設計速度40km/h、2車線）
- ・全体事業費：約5億4千万円
- ・計画交通量：約2,700台/日
- ・費用対効果（B/C）：7.15

事業概要②



写真①

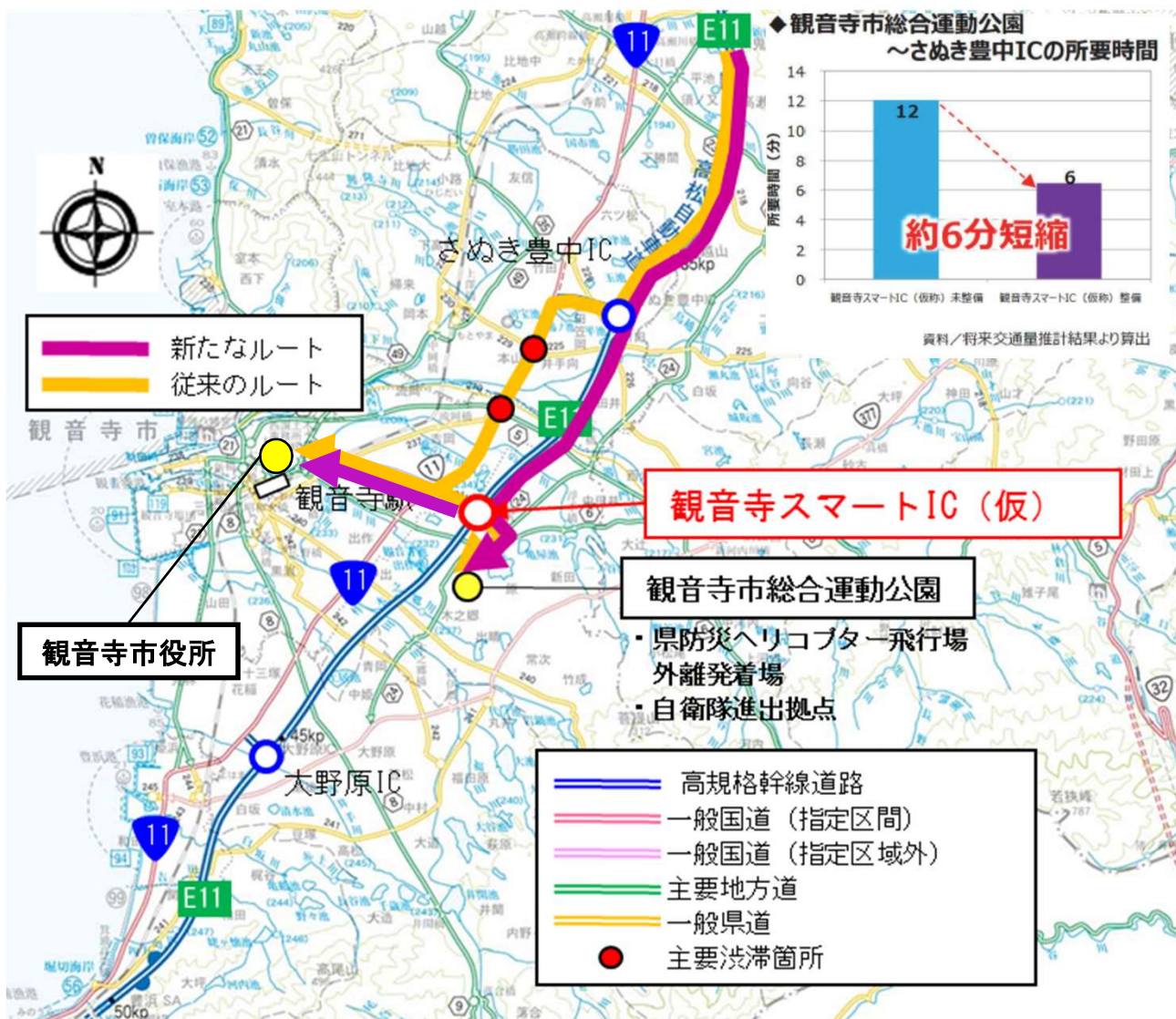


写真②

【整備概要】

観音寺スマートインターチェンジ（仮称）の新設に伴い、S I C本体と既設市道とを結ぶ1次アクセス道路を新設する。

整備の必要性(災害)



「この地図は、国土地理院から承認を得た地図（承認番号 平29 四使、第1号）の一部を抜粋して掲載しています。」

【整備効果】

■ 大規模災害時における、県防災ヘリコプター用飛行場外離発着場や自衛隊の進出拠点でもある観音寺市総合運動公園へのアクセスや、物資拠点である観音寺市役所へのアクセスがさぬき豊中ICに限定されている。

➡ 大規模災害時における、災害派遣の招集・出動および物資供給の迅速かつ確実な対応が期待される。

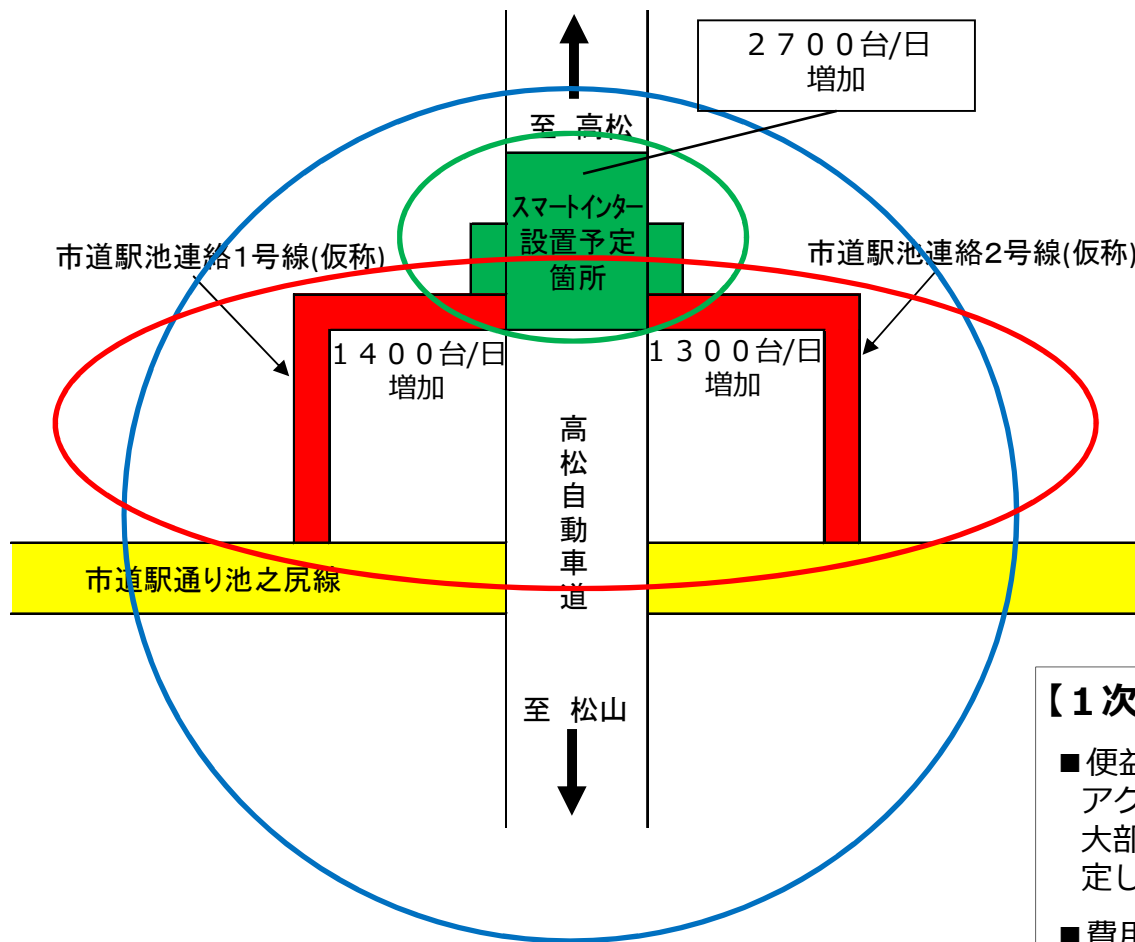
【関係者の声】

■ 災害発生位置や被害規模を考慮して利用ICを選択してもらうため、物資供給や人の移動等における高松自動車道へのアクセス箇所が増えることは非常に有効である。

■ 高速道路は一般道と比べて安全で信号もなく、危険を回避できることで輸送効率を高められる。

■ 大規模災害時には、1分1秒を争う人命救助が必要になることが想定されるため、自衛隊等をより早く招集できることは非常に重要である。

費用対効果の考え方



凡例	備考
■ 事業箇所	1次アクセス
■ SIC本体	
■ 既設市道	

- 便益
- 費用A (S I C本体)
- 費用B (1次アクセス道路)

【S I C本体における費用対効果の考え方】

- 便益については、1次アクセス道路が整備されていない場合は、インターを降りることが出来ないため、1次アクセス道路が整備されていると仮定し、施設全体として考える必要がある。
- 費用については、S I C本体と1次アクセス道路は別事業であるため、S I C本体のみの費用を考える。

➡ $B/C = \text{○} / \text{○}$

逆の考え方

【1次アクセス道路における費用対効果の考え方】

- 便益についてはS I C本体とは逆の考え方で、1次アクセス道路はインターへのアクセス車両の利用が大部分であるため、インターが整備されていると仮定し、施設全体として考える必要がある。
- 費用については、S I C本体と1次アクセス道路は別事業であるため、1次アクセス道路のみの費用を考える。

➡ $B/C = \text{○} / \text{○}$

費用対効果の検討結果

①費用

単位:億円

	事業費	維持管理費	合計
基準年	令和2年度(2020年度)		
単純合計	5.4	1.0	6.4
基準年における 現在価値(C)	4.49	0.35	4.84

②便益

単位:億円

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和2年度(2020年度)			
供用年	令和7年度(2025年度)			
単年便益 (初年便益)	1.95	0.20	0.03	2.18
基準年における 現在価値(B)	30.94	3.20	0.47	34.61

※推計交通量2,700台(平成22年道路交通センサスをベースとした自動車OD表(三段階推定法)より)

③結果

費用便益比(B/C)	7.15
経済的純現在価値(B-C)	29.8億円
経済的内部収益率(EIRR)	24.30%

今後の予定

【今後の予定】

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
実施内容	詳細設計 用地測量 用地買収	物件調査 物件補償 用地買収	工事	工事	工事

(令和7年度末運用開始予定)

結論

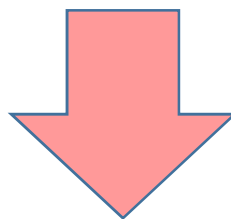
事業の必要性

○管内医療機関の受入ができない場合における管外への多様な救急搬送ルートが可能になるほか、重症患者の搬送時間を短縮できる。また、IC10分圏内となる人口が新たに18,752人増加し、より多くの重症患者を迅速に搬送できる。

○大規模災害時における、県防災ヘリコプター用飛行場外離発着場や自衛隊の進出拠点でもある観音寺市総合運動公園へのアクセスや、物資供給である観音寺市役所へのアクセスが容易になり、迅速かつ確実な対応が期待される。

費用対効果

○費用便益比（B/C） = 7.15



対応方針（案）：実施